ボタンの花 長く美しく

障害者も作業に参加

コンクリ製品の和光産業

保存加工、薬品工夫し実現

ボタンのプリザーブドフラワー

コンクリート製品製造の和光産業（松江市）は島根県花のボタンを5年ほど長持ちするよう加工するプリザーブドフラワー事業に乗り出す。ボタンは花びらが薄く加工が困難だったが、薬品を工夫するなどして実現した。栽培農家と協力し、農福連携事業として作業の一部を障害者が担う。「古くから美しさの象徴とされる華やかな花を長期間楽しんでほしい」としている。

花びらの整形など作業の一部を障害者が担う

大輪の花が咲くボタンは中国では「花の王」とも称され、伝来した日本でも多くの絵画に登場するなど愛されてきた。国内有数の産地として知られるのが、島根県東部の中海に浮かぶ大根島（松江市）で、江戸時代中期に島の住職が遠州（静岡県）から薬用として持ち帰って伝わったとされる。

県の調査によると2020年度の松江市のボタンの出荷本数は苗木が40万3000本、鉢植えが7万5000鉢で、欧米などへの苗木の輸出実績もある。ただ「鉢植えなどでは花が咲く一時期しか楽しめない。通年観賞できる新たな魅力を付加